

平成28年度
「ネットトラブルから子どもを守る連絡会議」

平成28年7月27日(水)
兵庫県教育委員会 教育企画課



考えよう 家族みんなで
スマホのルール

私たちは子供たちの情報モラル育成に取り組みます

兵庫県教育委員会



文部科学省

今までの取組

～H25

教職員を対象とした校内研修パッケージ

【取組内容】

各学校において、スマートフォンや無料通信アプリの利用への対応、ネット上のいじめへの対応、情報セキュリティ等に関する校内研修が短時間で実施できるよう、情報教育専門推進員が中心となり作成。

- 無料通信アプリ
- ネットの利用状況
- 情報セキュリティ

- ネットいじめ
- 早期発見・対応
- 喫緊の課題(コミュニティサイト利用の危険等)

- 著作権
- 情報の信憑性

今までの取組

～H26

ネットトラブルから子どもを守る協働会議

【目的】

児童生徒のスマートフォン等の利用に伴う危険やトラブルを未然に防止するとともに、児童生徒の情報モラルを高める。

- 啓発動画教材の作成
- 教員による指導を支援するための校内研修パッケージ
- 保護者を対象とした研修資料の作成

県内各市町の取組状況

29_{市町}

実態調査を実施

21_{市町}

リーフレット等を作成・配布

9_{市町}

キャッチフレーズ等を作成・呼びかけ

35_{市町}

講演会・研修を実施

／41市町組合

県内各市町の取組と課題

29_{市町}

実態調査を実施

○南あわじ市教育委員会

- ・連合 P T A、地元警察、市教委が合同で調査
- ・市内小 4 ～中 3
- ・調査結果の公表、保護者だけでなく市民に
- ・基本 3 箇条 + 家庭のルール 3 つを呼びかける

○アンケート項目の精選・見直し

○各市町のアンケートの統一

県内各市町の取組と課題

21市町

リーフレット等を作成・配布

○丹波市

- ・小学5年生家庭に配布
- ・学校の情報モラル学習やP T A懇談会で使用



丹波市

○配布するだけの取組になっている

○リーフレットを活用した学習・家庭教育の展開

県内各市町の取組と課題

9 市町

キャッチフレーズ等を作成・呼びかけ

○三田市 こども教育委員会

- ・ス スマイルになれる内容を
- ・マ まもろう時間を
- ・ホほんとうのつながりを大切に
- ・マ まきこまれるなトラブルに
- ・ナ ながらスマホ禁止
- ・ー 一人一人が正しい生活習慣を

三田市



- キャッチフレーズの浸透が弱い
- 市民運動との連携不足

県内各市町の取組と課題

35市町

講演会・研修を実施

○教職員の研修会

- ・管理職研修
- ・情報教育担当者
- ・生徒指導担当者
- ・情報交換
- ・新しい情報の入手
- ・対応策の検討

○全教職員への広がりの停滞

○教員の危機意識の停滞

県内各市町の好取組

5 市町

市内全中学校の生徒会を集めて

○合同生徒会→各校生徒会

伊丹市

・生徒会リーダーズセミナー

高砂市

・いきいき生徒会会議



伊丹市リーダーズセミナー

■市内全中学校の運動として

■SNSは他校ともつながるので

県内各市町の好取組

児童生徒・教員・保護者を集めて

○親子学習会

- ・児童生徒＋教職員＋保護者
- ＋学校便りで実態調査公表
- ＋情報モラル教育参観日



小野市立旭丘中学校

- 学校と家庭の連携強化として
- 家庭の話題とするきっかけに

県内各市町の好取組

6 市町

産官学連携の「ケータイ教室」

○相生市・たつの市
養父市・三木市
多可町・芦屋市



KDDI & 兵庫県警 &
ソーシャルメディア研究会



KDDI

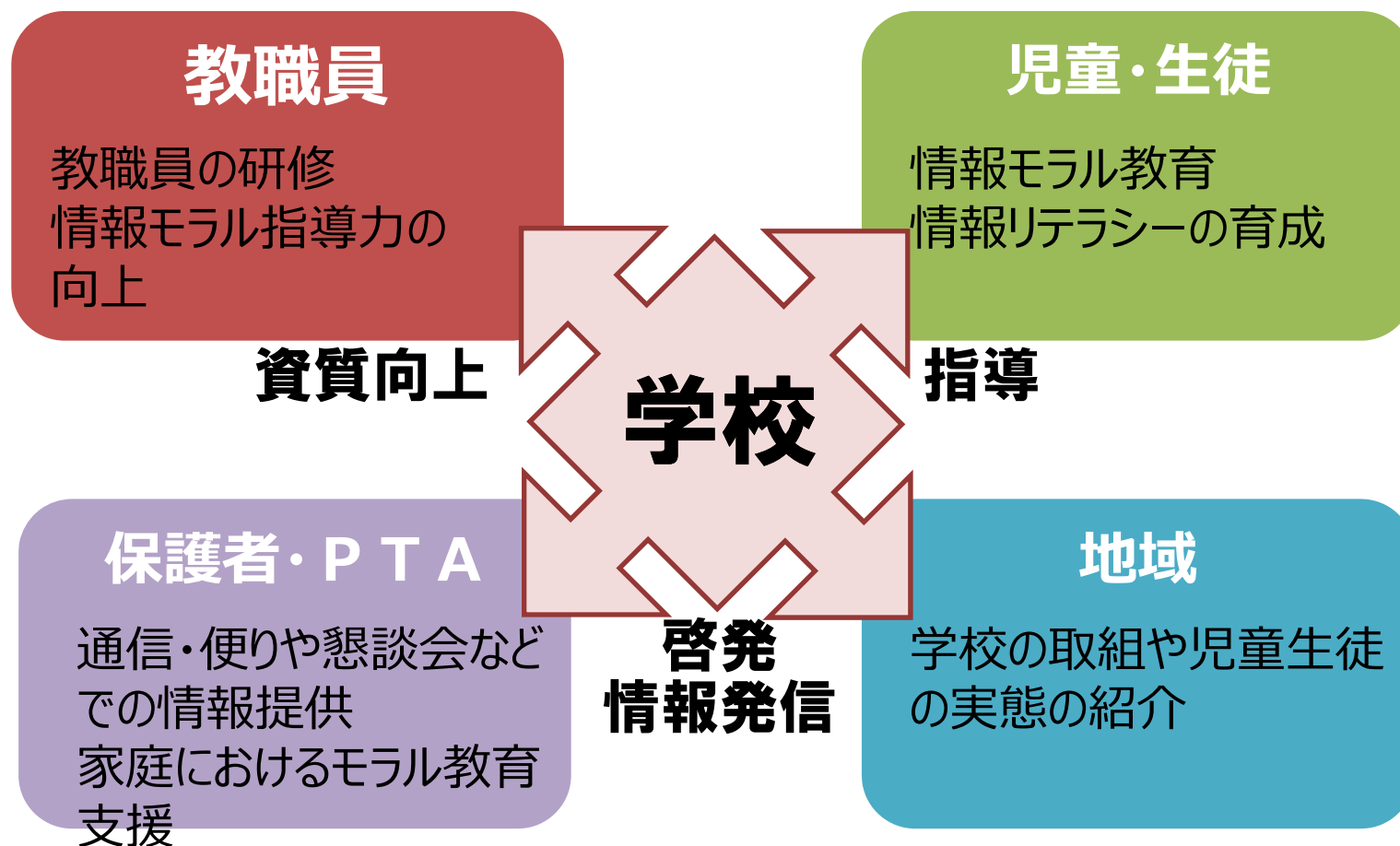


神戸新聞2015.6.18

- 地域一帯の啓発活動として
- 地域の課題・問題に直結して

情報モラル教育

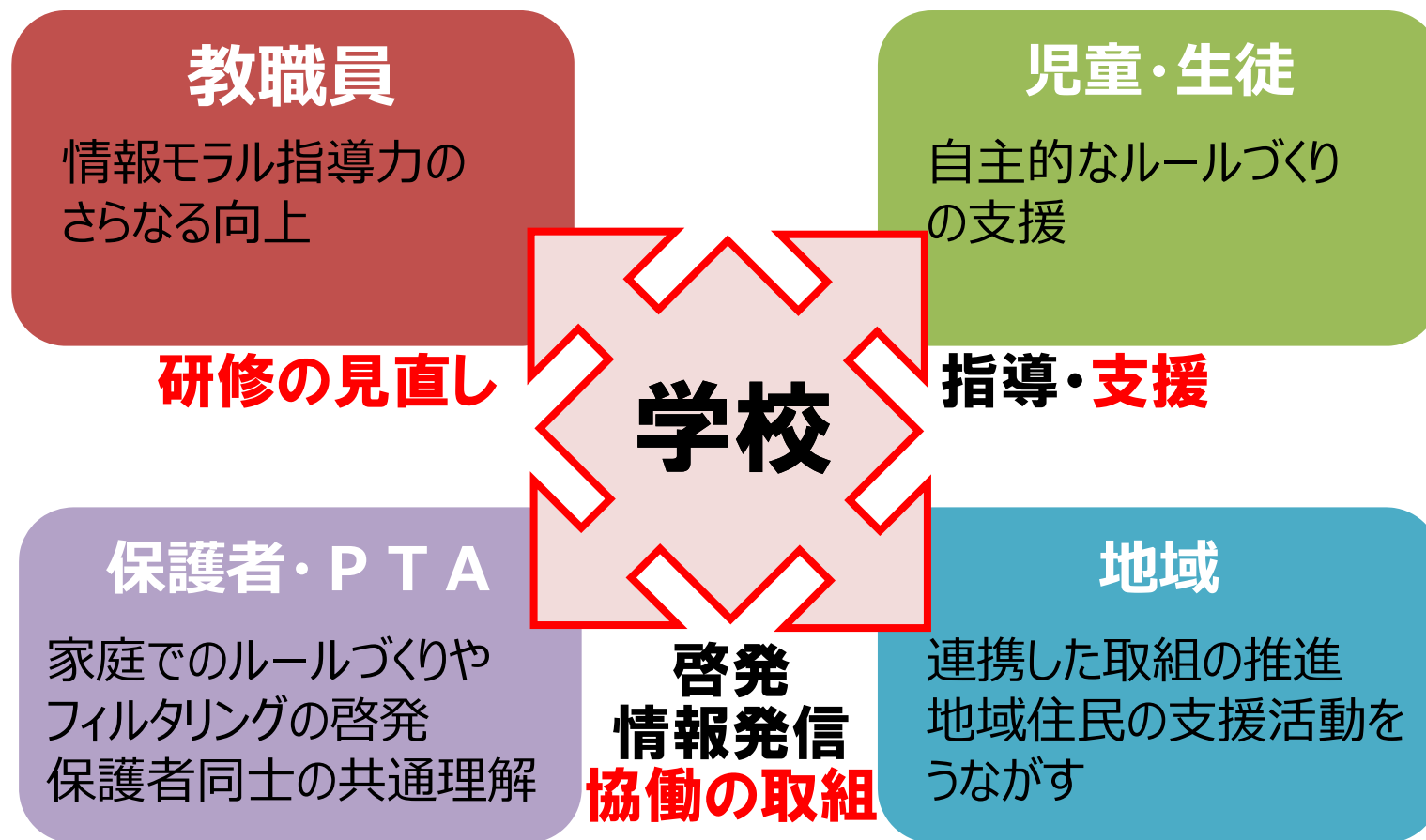
①学校の果たしてきた役割



学校が推進役として課題教育を推進・展開してきた

情報モラル教育

②今、学校に求められる役割



学校の変革が求められている

情報モラル教育

②今、学校に求められる役割

教職員

モラル指導力のさらなる
向上

研修内容等の見直し



- 利用実態の正しい把握
- 仕組みやリスクの把握
- 教え込みではない指導の
習得

児童・生徒

自主的なルールづくり
の支援

指導・支援



- 教員主導→生徒主導
- 生徒の納得・遵守意識
- コーディネーターの活用

情報モラル教育

②今、学校に求められる役割

保護者・P T A

家庭でのルールづくりや
フィルタリングの啓発
保護者同士の共通理解

地域

連携した取組の推進
地域住民の支援活動を
うながす

**啓発
情報発信
協働の取組**



- 学校主導からの脱却
 - 連携した取組
 - 外部の力を活用
 - 地域団体の参画

情報モラル教育

③取組が目指すところ

教職員に
対して

- 利用実態の正しい把握
- 仕組みやリスクの把握
- 教え込みではない指導の習得

誰もが自信を
もって情報モラ
ルを指導できる

生徒に
対して

- 教員主導→生徒主導
- 生徒の納得・遵守意識
- コーディネーターの活用

自分たちでルー
ルを決め、正し
く利用する

大人に
対して

- 学校主導からの脱却
→連携・参画した取組
→外部の力を活用

子どもと一緒に
正しく利用する
環境をつくる

情報モラル教育

④今の事業施策・取組

教職員に
対して

- 情報教育研修会
- 校内研修教材の作成
- 多様な研修講座の提供
- 新しい研修システムの確立

誰もが自信を
もって情報モラ
ルを指導できる

生徒に
対して

- リーフレットの配布
- 生徒用研修教材の提供

自分たちでルー
ルを決め、正し
く利用する

大人に
対して

- リーフレットの配布
- 保護者用研修教材の提供

子どもと一緒に
正しく利用する
環境をつくる

めざすゴールに迫れるか